



みどりの風

令和5年10月31日発行
校 報 613号
(みどりの風 155号)
練馬区立関町北小学校

命 の 話

校長 吉川 文章

本日と明日、新校舎落成記念行事（次頁に校長式辞：抜粋を掲載）が行われます。「過去、現在、そして未来へつなぐ」というテーマのもと、実行委員会の皆さまのお知恵とお力をいただきながら、学校と地域が一体となり約2年にわたり紡いできた行事になります。学校と保護者や近隣の学校、地域の皆さまとの絆が深まり、子供たちが関北への愛校心を高め伝統を未来へ継承していく節目にしていきたいと思います。このプログラムに関わった全ての皆さまに感謝を申し上げます。

さて、以下は、毎年命の大切さを育む機会として全校朝会で講話をしている内容です。新校舎落成記念、そして「ふれあい月間」の節目にあわせて、自他の命を大切にする心情をさらに高めてまいります。ご家庭でも話題にしていいただければ幸いです。

今から、30年以上前のことです。私は、まだ若く、学校の講師の先生としてある学校に自転車に乗って通っていました。いつも西武新宿線の踏切を通るときに、踏切にお花が供えてあることに気がつきました。お花のそばにかわいらしいウサギのぬいぐるみも置いてあり、先生は「小さな女の子がここで事故でなくなったのだな」と思いました。ある時はお菓子が、ある時は花柄のワンピースが供えてありました。踏切を通る度に胸が締め付けられました。小さな命がなくなった悲しみと家族の、特にご両親の辛さを思いました。しばらくして、先生は違う学校へ転勤になり、何年もその踏切を通ることはありませんでした。

20年ほどの月日が流れました。生まれた子が大人になるくらいの長い時間です。わたしは2人の女の子のお父さんになっていました。武蔵野市の学校に転勤することになり、あの踏切を通るようになりました。踏切には、なにも置いてありませんでした。先生は「お家がお引っ越しされたのかな。長い年月でご両親もお年を取られ病気にでもなられたのかな」と心に何かひっかかる思いで毎日そこを通りました。

一ヶ月ほどした時のことです。その踏切にはお花が供えられていました。そして、お花のそばにはお化粧道具が供えてありました。先生はそれを見て「小さかった女の子も生きていれば大人になっている頃なのだ」と思い、ご両親の我が子を思う気持ちに胸が引き裂かれました。ある日には、おしゃれな靴が、ある日にはお酒が供えてありました。毎日そこを通る度に、私の二人の娘が元気で育ってくれた喜びに感謝をするとともに、今の学校の子どもの命を大切にしようという気持ちを強くもつようになりました。今はその踏切は通っていません。でも、ご両親は生きている限り、我が子を失った悲しさは変わることなく、お供えを続けておられると思います。

みなさんもそんな大切な命をもっているのです。

10年ほど前、わたしが勤めていた学校の男子児童が何ヶ月も病氣と闘って亡くなりました。足が速く、運動会ではいつもリレーの選手。クラスで困ったことがあると相手の気持ちを考えた発言をする野球が大好きな元気で友達思いの6年生でした。わたしは、彼の命日に近い日に、毎年お線香をあげて手をあわせています。お墓には、「家族」という言葉が大きく刻まれています。彼のご両親は、彼が大好きだった野球場のそばにわざわざお墓を移されたそうです。たくさんのお花と野球のボールがいつもお供えされています。

「命の話」を聞いてみなさんは何を感じましたか。クラスでも話題にしてみてください。

新校舎落成記念式典 11月1日 校長式辞（抜粋）

新校舎落成記念式典を開催しましたところ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りました。学校の代表として心から感謝申し上げます。練馬区学校施設課のみなさま、コバ建設をはじめとする工事業者のみなさま、約5年間にわたる新校舎の改修工事が安全、安心に執り行われ、その間、子供たちの教育活動が円滑に推進されるよう、全面的にご支援をいただいたことに改めて感謝申し上げます。3年間は「コロナとの闘い」でもありました。45億の工事予算、3万人を越える工事、行政関係者の方々が関わってくださったとお聞きます。苦難の連続であったと拝察いたします。100回を越える関係者による会議での最優先となることは「関北の子供たちのために」でした。工事に関わった全ての方が仕事の枠を越えて「子供たちの安全、安心、笑顔」のために尽力をされていること「頭が下がる日々」でした。重ねて感謝申し上げます。

5,6年生の皆さん、工事は皆さんの学校生活とともに歩んできました。6年生が入学した平成30年2学期から、「仮設校舎」の建設が始まりました。6年生が入学した令和元年の7月に仮設校舎が完成。8月には「さようなら関北校舎」のイベントが行われました。60年にわたり子供たちを見守り続けた校舎に別れをつけるように、思い出や感謝、お別れのメッセージを校舎に描きました。関中学校、石神井高校、東京女子学院の生徒さんによる、演奏やダンスのパフォーマンス。近隣の学校と絆を深める節目ともなりました。11月に「開校60周年記念式典」が行われました。式典が実施されるまでの期間、わざわざ工事を止めてくださいました。工事業者の方々には、行事がある度に大きな音が出ないような配慮をしていただきました。

約3年にわたる長い仮設校舎での学校生活。広い校庭で活動することはできませんでしたが、狭い校庭や図書館、体育館を、順番を決めて休み時間を過ごしたり、クラスで工夫しながら内遊びをしたりしましたね。石神井高校からは「広大な校庭で遊び運動する機会」を設けてくださいました。

全世界に広がった「新型コロナウイルス」。臨時休校、制限のある学校生活となりました。わたしは令和3年度に関町北小学校の校長となりました。驚いたのは、皆さんの前向きな姿勢です。コロナ禍、仮設校舎での学校生活をむしろ楽しむかのように勉強に取り組む様子を毎日感心しながら見守りました。8月には、待ちに待った「新校舎棟」が完成。9月から新校舎での生活が始まりました。ちょうど皆さんが3、4年生の時。わたしは、全校に「何年も後の後輩が入学した時に、なんてきれいな教室や校舎、体育館だろうと感じて生活が出来るよう大切に使う伝統を引き継いでいきましょう」と話をしましたね。今でも来校をされる方からは「きれいな校舎ですね」「うらやましいです」と言ってくださいます。これはみなさん高学年が、旧校舎、仮設校舎を経験し、多くの方々の努力や苦労の上に、この校舎があるということを誰よりも理解し、感謝の気持ちを行動として現わし、環境整備の手本となっているからに他なりません。新校舎には、旧校舎、仮設校舎を経験したみなさんの先輩である卒業生の思いもこもっています。仮設校舎をともに過ごし、あるいは旧校舎の最後を見届け、さらにはみなさんが入学した際にお世話をしてくれた先輩。新校舎を見ずに卒業をしていった多くの先輩たちの思いを考え、深く心に刻んでほしいと願います。

6年生のみなさん、長い工事期間、そしてコロナ禍、制限のある学校生活の中でも、「ポジティブ」を合言葉に、創意工夫し一致団結し学校をリードした経験は、将来を生き抜くための「確かな力」となっています。校舎の改修工事は「百年に一度」と言われています。5年後、10年後、「わたしたちは、関北の記念すべき節目に立ち合い新校舎落成の年に最高学年の役割を果たしたと「胸を張って」言えるよう、残りの学校生活をさらに充実させてください。5年生のみなさん、新校舎落成の行事を大きな節目として、関北の「過去」「今」を心に刻み、未来に向けて学校をさらに前進させるリーダーとして成長して欲しいと願います。

結びにあたり、全ての皆様、子供たちを「いとし子」のように慈しんでくださりありがとうございます。彼らは関北の歴史を深く受け止め、新しい時代へと足を踏み出します。今後も厳しく温かく導いてくださいますようお願いいたします。